

P2HD 特集⑤

sponsored by Panasonic

国内放送局 P2HDの導入が拡大

コストパフォーマンスが鍵

国内放送局のP2HDシリーズ導入が相次いでいる。コストパフォーマンスと効率性、信頼性の高い半導体メモリーシステムは、質の高いコンテンツ制作を進めるうえで鍵を握る。P2HD導入でテープレス制作を図った放送局の現場をレポートする。

長崎国際テレビ

ニュース送出用から採用始める 「テープ装填がなく安定感がある」



石浜氏

長崎国際テレビ(長崎市)は3月1日、P2HDカメラレコーダー「AJ-HP X2100」(P2カム)を導入。近日中にさらに1

式を追加導入予定で、計2式のP2カムが稼働する。昨秋には、P2HDメモリーカード・レコーダー「AJ-HPS1500」(P2デッキ)3式を導入しており、スタジオ・サブの送

出デッキとして2式が稼働する。P2カム導入で、撮影・編集・送出のワークフローが完成した。

同社で最初に導入したP2HDシリーズは、昨秋に採用したニュース送出用のP2デッキだった。「VTRのテープ装填をなくしたいという発想から、P2デッキを採用した」と話すのは、技術局技術部の石浜浩司氏だ。送出サーバーを導入することも考えられたが、P2HDの安定感を選

また、既に稼働している松下電器製OTCや、2年前に導入したビデオ編集システム「HDS-1000」3式、「HDS-3000」など、P2カードとの親和性の高い環境がそろっている。今回のP2カム採用も「導入の環境が整っている」と(石浜氏)とい



導入したP2cam

「32ギガカードが出たことで実用的になった」と言う。カードはデッキ導入時に8ギガ18枚でスタートし、現在は8ギガ32枚、32ギガ12枚を保有。32ギガは取材用で、6枚ずつ(1枚は予備をカメラに割り当てる。カードには通し番号を記入した。堅田氏は、「今はカメラとカードをセットで管理

現場に出たらカードを抜かない、編集後はフォーマットしてカメラに戻すなど、丸作りをした。テープとは全く異なるメディアなのは、管理のために一定のルールが要る」と話す。

秋田テレビ

報道ワークフローをテープレス化 「効率性や品質など全要素で判断」



青木氏

秋田テレビ(秋田市)は2月、P2HDシリーズを導入した。採用したのは、P2HDカメラレコーダー「AJ-HPX2100」3式、P2HDハンドヘルド型カメラレコーダー「AJ-HPG10」3式、「AJ-HVX200」1式、16ギガのP2カード50枚。放送技術局長兼技術部長の青木氏は「06年のニュースサブ室のHD化に伴い、HD取材運用の強化を図っていた。07年の秋田わか杉



放送技術局長兼技術部長の青木氏は「06年のニュースサブ室のHD化に伴い、HD取材運用の強化を図っていた。07年の秋田わか杉



P2mobile

特に屋外の撮影で、テープでは結露などの心配もあるが、P2カードはその心配もなく、耐久性、メモリーの素材をネイティブに扱えるため、すぐに編集が始められる。ノンリニアなのに、キャプチャーを意識する必要がなく、大変効率的」と話す。

「現在、市場にあるP2フォーマット以外の機材では、素材の出入り口にデッキが必要となり、導入時のトータル的なコストが莫大となる。報道取材メディアの変更となると、取材・伝送・編集・送出と一連のワークフロー全体で対応できなければならぬ。運用面での効率性とクオリティ、そしてコストパフォーマンスの全要素で判断することが必要。その判断基準を満たしたのが、P2HDシリーズというわけだ」と語っている。

IBC岩手放送

報道システムHD化で本格運用 「編集との連携の速さに注目」

IBC岩手放送(盛岡市)は、報道システムのHD化に松下電器産業製P2HDを採用。4月から本格稼働を開始する。導入を検討し始めたのは約3年前。半導体メモリーを使用する製品コンセプトや、編集・送出システムと連携できるラインアップから、ワークフロー改善への期待を抱いたという。



河辺氏

「これにより、制作時間がより質の高いコンテンツを多く作成することに充てられるため、コンテンツが重要な今後の時代に対応できる」とスピードの持つ意義を説明する。

河辺氏は「06年のニュースサブ室のHD化に伴い、HD取材運用の強化を図っていた。07年の秋田わか杉

河辺氏は「06年のニュースサブ室のHD化に伴い、HD取材運用の強化を図っていた。07年の秋田わか杉



P2cam

河辺氏は「06年のニュースサブ室のHD化に伴い、HD取材運用の強化を図っていた。07年の秋田わか杉

河辺氏は「06年のニュースサブ室のHD化に伴い、HD取材運用の強化を図っていた。07年の秋田わか杉